

数学， 計算機， 哲学， 文学， そして学生へ。
 ——負けねえーよ！ 闘病日記。 ——

YAMASHITA, KOICHIRO kymst*

Version: Fri Jul 03 10:51:23 2015 JST

Contents

1	2015/07/01 (Wed)	2
2	2015/07/02 (Thu)	4
2.1	PLE relation	4
2.2	Emacs / Emacs-Lisp	4
2.3	picoTeX-mode	6
3	What's new! 初めての Anti-Cancer (20150709 (Thu))	8
3.1	話は唐突に... 予備校における下流志向	8
3.2	そしてこの夏. @2015/07/10 Fri.	9
3.3	Elite Consciousness	11



* Group Epsilon $G_{\mathbb{P}}^{\mathbb{E}}$, Free Math Forum by kymst $F_{\mathbb{M}}F_{\mathbb{K}}$ (<http://kymst.net>)

1 2015/07/01 (Wed)

kymst こと山下です。この度は、私事のせいでこのようなことになり、とくに受験生のみなさんに対して、本当に申し訳なく思っています。ある程度の話は戸神のアニキから耳にしているとは思いますが、キチッと私自身から事情を説明したいと思います。

病気は、疑われていた通り癌でした。それも、膵臓や胆管に原発部位をもつものでして、外科的な処置が極めて困難である、ないしは、たとえ実行したとしても再発の可能性が極めて高く、手術は行なわない、のが現実のようです。後は、化学的な療法、所謂「抗癌剤」の投与によって、癌細胞のこれ以上の成長と、他の器官への転移とを抑えるという選択肢のみが残されました。ですが、抗癌剤による治療というのはあくまでも発症あるいは拡大を抑えることが目的であり、完治を目指すものではありません。

.....

しかし、1週間前頃からでしょうか。こうやって謝っているのは美しいけれど、何も問題を解決していないことこそが気になり始めました。1学期の後半を休講にしてしまった責任は、すべて私にあります。病気であろうと何だろうと、責めを負うのは私であることは厳然たる事実です。しかしそれは、謝って済むものではないことも同様に否定しがたい現実です。

ならば、謝罪の後に来るべきものは何か？

主治医のお医者さんとの話し合い(この段階で、みなさんが書いてくれた色紙の寄せ書きがモノを言いました。初めはイイ顔をしなかつたお医者さんも、あれを見て多少の心変りを起こしたのかも知れません。Thanks, thanks, thanks です!!)の結果、夏の講習からは講座の講義を担当できることになりました。夏期講習の講座については、教壇に立ちます。つまり、みなさんの前で数学、ワメキます。

■M3JA/M3JSS M3JA 及び M3JSS の2つの講座は、1日4 hours の長時間ですので、多少の形式的な変更は許してもらうことになると思います。具体的には、問題によっては Teaching Assistant (TA) に手伝ってもらって、解説を答え合わせのような形でってもらうこともあるかも知れません。

ただし、重要な問題については、私は一切 Philosophy を変えていません。つまり、「与えられた 1 題から、5 題分を学べ!」です。逆に言えば、これが出来る問題が重要なのであり、解いて終りの問題など重要性をもたない、ということです。TA による解答と解説が 1 hour とし、残った 3 hours を私の講義に当てたいと思っています。実質的に、それ程失なうものはないはずです。..... 否、例年以上に濃い内容にする自身があります。

ここでしっかりやっておかないと、Prepre stu のこの1年の数学が、秋の M3Ω や M3Ψ に繋がらない、極めて中途半端なもので終わってしまう恐れがあります。ココハ逃セナイ!

■M3JB 自分で作った Text ですからね、ヤルに決まってるでしょう。時間は 3 hours なので、私 1 人でやれると思います。

■M3JP, M3Y これも自分で作った Text です。特に確率の講座 M3JP は、今年度私の頭の中で update を行なうことにより、大変な version up を実現しました。楽しみにしていて下さい。

実は私、特に前にいた予備校などでは、「場合の数や確率は苦手でキライだ!」と言うのが常だったのですが、変わりました。面白味が実感できた、というのでしょうか、そのキッカケはある洋書を読んでいたときに出て来た phrase, *Principle of bijection, bijective proof*, です。今から考えるとアタリマエの話なのですが、組合せ論 combinatorics で何かを数えるときに用いられているのがこの『双射原理』なわけです。それまで私は、この実感をもっていなかった、ということだと思います。

この双射原理ともう 1 つ、生成関数 (generating function) という概念を手に入れることによって、みなさんの組合せ論は強力無比なものになるはずですよ。

そして Y についてですが、そもそも、JP の作り方と Y の作り方、全然違うんです。だいたい Text の見栄えや装丁が雲泥の差でしょ。DQN は、数学の中身だけ DQN なのではなく、こういう作業をしても DQN なままだ、ということが解るでしょう。ものを作る、というのは、(ほぼ) 人間にのみ許された行為です。また、幻想、夢想、妄想、空想を抱くというのも同じです。その意味で、この創造と想像は常に相互に依存すると共に融合しようとするわけですね。この辺がブタやサルにはない、ということでしょうね。金の亡者の若手人気講師や恩知らずの卑怯者にも...

Y は正真正銘、私が、最初の 1 文字目から、Solutions の最後の文字までを、一切のパクリなしに入力してできた Text です。特に、解答と解説部分、つまり Solutions の部分ですが、そこでは、「問題の正解が出た場合でも、読めば得るもののある解説」を心掛けた積りです。

M3JP が 2 hours, M3Y が 3 hours ですから、いずれも私が最初から最後まで話ができるはずです。

Schedule の確認のためにも、時系列で以下にまとめておきます：

- M3JA: 07/21 (Tue) - 07/25 (Sat).
5 days. at Shinjuku. 08:50-13:10
- M3JB: 07/27 (Mon) - 07/31 (Fri).
5 days. at Shinjuku. 09:10-12:10
- M3JSS: 08/10 (Mon) - 08/14 (Fri).
5 days. at Ochanomizu. 11:10-16:10
- M3JP: 08/17 (Mon) - 08/21 (Fri).
5 days. at Ochanomizu. 14:10-16:10
- M3Y: 08/24 (Mon) - 08/28 (Fri).
5 days. at Shinjuku. 13:10-16:10

今日は以上です。 <http://kymst.net>, ときどきのぞいてみて下さい。

2 2015/07/02 (Thu)

to: grpE members and Others

kymst posted

山下です。もう少し、chibitex について、というか、emacs における major mode について話そうと思います。所詮は tips (豆知識, trivia) でしかない、とも言えますが、考え方によっては端末と付き合うための「実践理性」に対する批判にもなっています。この辺も emacs-lisp に絡めて連載ものにしていく積もりですので、お付き合い下さい。何しろ、病院、ヒマなんです.....

2.1 PLE relation

最終的な結論の先取りになりますが、端末に触れる以上、editor *¹には詳しくなった方がいいです。何と言っても、pslptr *² の主目的が、(program の source file を代表とする) file を作成することである以上、その主役は editor 以外にないからです。その意味で、programmer と彼が操る program 言語との関係は対象言語 とその言語使用者 (および彼 / 彼女が考えている限りでの意味) という object-level にありますが、programmer <==> program 言語を編集する際に彼が用いる editor、略して「prgmr / editor 関係」は、meta-level の関係になります。multilingual-programmer が自分 / 言語 / editor という 3 項の関係を、扱う言語ごとに変えていてはやってられません。第 3 項 editor 上で、最初の 2 項からなる複数個の pair が有関係的構造様式として体系化されるべきであると、ないし体系化されているのだ、と思います。

2.2 Emacs / Emacs-Lisp

emacs については、上記の editor 理解の上に立った上で、世界最強の editor である、と納得してくればそれで十分です。もともとは、MIT の物理学科にいた Richard Stallman という天才 programmer が、MIT の AI Labo にある computer TECO 上で動かすことから歴史に登場することになった editor で、名前の由来は Editing-MACroS だそうです。

他の editor との違いは、elisp という 1 つの interpreter programming 言語の 処理/実行系の full set を、マルのまま含んでいる、ということであり、そして更に、その処理/実行系が emacs で書かれていること、従って emacs で document を書くということは、elisp という programming 言語で document を書いていることに他ならない、ということ、です。解り難いですよ、もう少し整理します。

ここで以下、lower case で (番号があってもなくても) emacs と書かれたときには、大体におい

*¹ この意味はいいですよ、ある程度の長さの document を編集するための soft ware のことを、今日では単に editor と呼びます。かつては、1 行ごとの編集が中心だったので、このような single-line-editor と区別して multiline-editor と呼ばれたり、あるいは kbd からの入力と同時に display 上に編集結果が反映されるので real-time editor と呼ばれました。

*² Personal Computer を以下こう表わします。パソコンという呼び方、キライです。pasokon <==> perso-com って、音の関係が何もない。

て editor としての Emacs と program 言語 elisp のの処理実行系を合わせたものを意味する、と
 考えて、それ程の支障はないと思われる。

- (1) document を書くことだけに、elisp という programming 言語を占有できる、ということ。
 つまりは、editor Emacs のオマケとしての elisp 実行環境。この Emacs を emacs0 と呼ぶ。
- (2) Emacs で document を書くに際して、editor としての振舞いが気に入らないので、elisp で
 書いた program と取り換えて、それが走るようにしちゃおう。この Emacs を emacs1 と
 呼ぶ。

- (3) では、emacs0 を emacs1 にする program は、どこで、どのように書かれるか?

答え: emacs0 上で書かれる。Editor emacs0 は (emacs1 もだが), elisp で programming を
 行なうための front-end, つまりは program を書きそれを実行するための下請け application
 でしかない。

この意味は、editor Emacs は elisp での programming のための user interface であり、更
 に言えば、editor Emacs は program 実行処理系 elisp のオマケである。

- (4) さて、emacs0 上で書かれた program によって、emacs0 は目出たく emacs1 に換骨奪胎し
 た、としよう。特に YaTeX を使っている member には解りやすいと思うが、YaTeX mode
 というのがこの emacs1 に当たる。
- (5) 人間、嗚呼、この欲深きものよ。いつかは、YaTeX にも気に入らない挙動が目につくよう
 になる。もちろん elisp で program を書いてそれを Emacs で実行しよう。この Emacs は
 emacs2 であることに異論はないであろう。

ただ、もう 1 つ重要な点がある。YaTeX そのものが elisp で書かれていることは極めて重
 要である。

- (6) 世に、「カスタマイズ可能」という触れ込みの application は星の数ほどあるが、カスタ
 マイズするための macro 記述言語が、その application の program source が書かれた言語
 であることはほぼない。最近、python でこうした movement があることを知ったところ
 である。つまり、macro 記述に expertize できたとしても、その application 自体について勉
 強できたことにはならないのである。例えば「秀丸」editor は C/C++ で書かれている (ら
 しい) が、macro は C/C++ で書かれるのではない。

Emacs は違う。elisp program を書く筆記用具としての、editor としての Emacs は elisp
 で書かれて (= program されて) いる。その上で走る program の 1 つの代表としての
 YaTeX ももちろんそうである。これまた星の数ほどある、Emacs の major mode は、すべ
 て elisp によって書かれている。

- (7) ということは、ある major mode μ -mode が emacsN によって Hyper- μ_N -mode から
 HyperHyper- μ_{N+1} -mode に書き換えられるとき、処理系、実行系としての emacs は
 emacs0 のままであることになる。

高次の実行系としての emacsN は、それが内包する高次の elisp program である major
 mode μ_N で書かれ、 μ_{N+1} を記述しかつそれを動かすが、 μ_{N+1} は最下層にある elisp に

よって「動かされている」のである。

- (8) この構造は、現代の von Neumann 型計算機の言語階層、つまり Machine Language < Assemble Lang < Compile Lang における、下方向非透明性 ないしは 意識的忘却、に似ている。Compile 言語で program を書くとき、それが機械語ではどうなるか? を考える必要はない (多少の例外、極端な計算速度が要求されるような場合、など、もあるが)。

その意味で、「Emacs は editor じゃない。あれは OS だ」とか、「Emacs を使いこなすのに Emacs を好きになる必要はない。好きな Emacs にすればいいだけさ」とか、言われるのも頷ける。要は、いくら高次の level で動くように major-mode を書いたところで、いざとなれば最下層 elisp を調べればいいだけの話なのだ。この雑草のような flexibility が、また Emacs の魅力であるように思える。

2.3 picoTeX-mode

...にまで話が辿り着きませんでした。連載なので、これからも楽しみにしてくれると嬉しいです。また、反論、疑問、質問、イチャモンなど頂けると、もっと嬉しいです。

今回は、picoTeX における enumeration environment についての話から始めましょう。箇条書きですね。

TeX では

```
\begin{enumerate}
\item hoge
\item hero
\end{enumerate}
```

みたいなヤツです。

PS.

この file 20150702log.tex 自体が、chibitex-mode で書かれた file 20150702log.chx から、やはり chibitex-mode の 1 つの module である chx2TeX translator という elisp program で (半分) 自動生成されたものです。もし興味のある方がいらっしゃいましたら、chx と tex file をいっしょにして送ります。

ただ、この辺については chibitex の設計思想が脆弱だった (なんでかって言うと、emacs にはじめて触った日に徹夜して、それから 1 週間の間は確か 3 回しか寝なかったと思う。3 回目の睡眠から目覚めた途端、作り始めてしまった。ちょうど TeX を始めたのと同じころのこと。「動けばいいや」感満載で、今では source code を見る気もしない。)

思想に一貫性がないせいで、実装がゴタゴタしている。

そんな訳で、chibitex から downgrade したその subset, picoTeX をまずはまとめてみたい、と思っています。

その辺の話も、この連載で明らかになるので、今直ちに見なくても支障はないと思いますが。

3 What's new! 初めての Anti-Cancer (20150709 (Thu))

今日, 07/09 Thu で, この病院 NCGM に入院してちょうど 3 週間が経ったことになる. 国立癌センターでも原発部位が特定できず, 最後に紹介されたのがここだった. お陰で, 頼りになるお医者様と医療スタッフに囲まれて, 現在は治療に専念できる.....と言うと聞こえはいいが, 実体は自分の強欲さ故, 「あれやりたい!」, 「これもやらにゃ!!」で, あまり褒められた闘病生活ではない...と言うより, 最悪の不良患者である.

先生がた, ゴメンナサイ.

3.1 話は唐突に... 予備校における下流志向

今日, いくつかの小さな検査の結果, 問題がないようであれば最初の抗がん剤 (Anti-Cancer, これ以降 AnCc で略記する) の投与を行なうことになっている.

説明を受けたとき, 副作用について話を聞いた. 「いやなことがすべて起こります。」と言われた. 脱毛, 吐き気, 眩暈, 脱力, 黄疸の症状などらしい. 仕方がない. そこまで引き受けての闘病なのだ! と, 頭で解ってはいても, やはり怖い.

決して自分が Dandy であるとは思わないし, ただでさえ貧相な体が最近では痩せて見る陰もないような体型になっていることは解ってはいるが, モノゴコロ付いて以降, 自分を動かして来たのはある種の Heroism であり Dandyism であり, そして Elite Consciousness であった.

それが崩れることへの恐怖なのかも知れない.

Elite Consciousness で代表させよう. これは何か. あくまでも私見であるが, 所属する研究室では特権的に勉強すること, 研究すること, 職場では特権的に仕事をする, である. 数ヶ月前まで筆者のいた (現在もいることになっている) 職場は, 予備校であった. 中途半端な年齢 (30s - 40s) の「人気講師」ほど, 血を流して仕事することをしない. Text に対するケチツケはするが, 生産的な批判はできない. まして, 自分で構想を立て, 執筆し, 編集を行ない, TeX で入力し, 校正作業を行なう, という, 何かを創造するための当然の作業——ドロカブリ——をしようとしなない. 従って, 教室あるいは統括のスタッフにも信用されずに終る. そんなヤツばかりである.

他方では, スタッフの方も, 評価基準がせいぜい生徒アンケートくらいしかないせいで, 両者ともナァナァの惰性的関係から一步も飛躍できない. その結果, 口当りのよい, 周りに女子高校生の集まる, 生徒とナカヨシの人気講師が重用され, 数学的なナカミはますます薄くなっていく. 講師室では, グルメ談義と飲み会の話以外は口にはしてはいけないことになっているらしい. これが (一応は大手の, 名の知れた) 予備校の実体である.

ここに, 私の考える Elite Consciousness の対極にある「下流志向の予備校講師 version」である. 2 コト目には権利と privacy を持ち出す. ダニが権利など持ち出すンジャーネーヨ! 蚤に privacy なんかネーダヨ!

そして当然の帰結として, 井戸端会議のオバチャン的な物知りばかりになる. 誰も聞いていないのに, あるいは, 自分が声高にしようとする話に興味がない人間が周りにいることに気が回らず

に、デカイ声でドーデモイーような話を延々と続ける

朗らかそうにしていながら、あるいは職場のスタッフに従順そうな振りをしながら、講師室に入って来たとき、目を見て挨拶しない、できない。それでいて、幹部候補の今後偉くなっていくスタッフにはやたらとベタベタしようとする。まあ、来年のコマのこと考えてるのは解るけど、あの予備校で偉くなっていくスタッフは、全部私と仲良くなった人だから、君に出番はないよ、.....(実はここからは、きれいな中途半端下流志向ボケナスどもの個人批判を名指しで書きまくって、この document をボツにしようか、とも思ったのだが、止めておく。読んで欲しいのは、彼らと対極にある GrpE members や Reading Math members なのだ、ということ思い出した。)

何しろ良識の欠如、育ちの悪さが余りに露骨に見える。お願いだから死んで欲しい.....そうか、こっちが先か...この手の、貧相な知性、育ちの悪さ、「種も畑も悪かった、おまけに日照りでネヂレテのびた」ような中途半端教員の対極にあるのが、(繰り返しになるが)私の考える Elite Consciousness である。

コイツラ、一宿一飯の恩義も感じず、義理にも人情にも欠けたボーフラ守銭奴教員やスタッフとの差異性をなくしたら、自分の Dandyism, 最後の砦としての Heroism が瓦解する。その危機意識が先に立つ。自分は自分の決めた Dandy, Elite, Hero の圏域に留まることができるのか? それとも老齢と Cancer という2つの圧力の前に identity を守ることが出来ぬまま沈没するのか?

そして、今回は AnCc であることによるもう1つの bias がかかる。それは、Cancer という、私にとって passive な形で引き起こされた危機だけでなく、生じる結果の半分は active に選んだ療法の帰結である、ということである。Heidegger の言う被投性 (Gewolfenheit) と企投性 (Entwurf) の間の不安 (Angust) という関係だろうか。

病が pathos である (だから病理学は pathology だ。ちなみに19世紀の関数病理学は pathology of functions である。) だけならば、すべては諦めれば済む。そうではないのだ。怖さは、AnCc にある。AnCc による延命作業は、pathos (受動, 受難) であるだけでなく、自由意志による意思決定がその大きな部分を占める。自由がこれ程にも怖いものであるとは、これまで全く意識せずに来た。

3.2 そしてこの夏。@2015/07/10 Fri.

日が変わった。昨日 07/09 に、初めての AnCc の投与を行なった。その後の経過は今のところ順調であり、これと言った副作用はないし、体がダルイということもない。とは言え、副作用が発現するのもも個体差があり、いつ現実のものになるか、は解らないのだが、それでも多少は心が落ち着いていることは事実である。早ければ今日からいろいろな trouble があるそうなので、食欲も (あるとは言えないにせよ、むしろ数日前よりもましな程度だが) 普通であることで、多少とも心が安まる。

現在、職場で信用できる人間は、自分にとって4人、initial で T.,S. / O.,S. / Y., T. / K.,K.

である。

自分としては、この闘病日記の第1日目に書いた通り、夏の講習が始まると同時に、現受験生の講義から復帰する積りであった。ところが、先に挙げた4人の方々の総意として、反対された。「オマエは玉砕すべきではないのだ!」と。復帰する以上は、現受験生の入試当日まで責任をとるべきであり、2度と、途中で講義に穴を空けてはならないのだ、と。更に、今年度ですべてが終るわけでもない。来年度にも繋がるような形で関わるべきなのだ。

猛烈に、声を荒げて抵抗した。最も悲観的な見方をすれば、AnCc を用いても半年なのだ。来年度の事など、考えてられる状態ではないのだ。1学期後半と夏から2学期にかけての内容は、オレしかできないのだ。たった40題弱の問題から、夏に100題分の話をするために、オレは教壇に立つのだ。悪いが来年度以降の受験生については、オレは責任をもつことは不可能なのだ。

.....

確かに不安がなかったと言えば嘘になる。初めてのAnCcの治療を受けたばかりで、この夏、いきなり長くて4hoursの講義を5日間最後まで勤めあげることができるのか? しかし、それでもやるべきだと思った。スタッフが教員に仕事をもって来る以上、「死んでもやり通せ!」というのが、依頼のあるべき姿だと思ったからである。向こうの立場として、「何故、『最後の仕事として、この夏やり切れ』と言わないのか?! 死んでも教壇に立て!!」と言うのが、オマエラの立場ではないのか?!まったく聞き入れては貰えなかった。提示された計画は、8月中旬からの確率の講座(2hours times 5)と下旬の図形の講座(3hours times 5),そしてRegularの1学期後半と夏、そして2学期につながる特別講座を8月末から9月の初頭に新設して、やるべきであったことをまとめる、というものだった。

これを、彼女と彼ら4人が苦渋の結果に見出したbestな選択であるものとして、今日の朝、認めることにした。多くの後悔は残ると思うが、また内心、ホッとしたところもある。週に1度は、AnCcの投与のため病院に拘束される身である。通院すれば済むというものではない。ここがAnCcにおけるpathosだけではない、こちらからのactivityが要求される場面でもある。Cancerであることが判明し、AnCcの投与が決まった途端に、治療に関わってくれるお医者さまや看護スタッフが、必ず「ガンバリマシヨウ!」と言ってくれる。「ガンバツテクダサイ」ではないのだ。初めは「優しいナ...」と思っていたのだが、違った。患者、被投与者、はCancerを「治して貰う」ことはできないのだ。医者も看護に関わってくれる方々も、「治してやる」ことはできない。

共同作業、と言ったら軽すぎるかもしれない。しかし、主体と客体という二元的存在の間の単一な方向性をもつ関係構造でないことは明らかであるように思う。治療を施す側(主体)と治療を受ける側(客体)への分化を許さない何かがある。Pathosへの関りの、主客二元論を許さない、あるいは主客対立を越えざるを得ない関係性、いずれも主体であらざるを得ぬ、Pathosへの『間主体的関係』としか言い様のない構造の中で生きていく、ということなのではないか。

これは、F. Nietzscheの言う強者のNihilism、無への「絶望的飛躍」に他ならぬ。すべてが終ったとき、「これが人の生であったか。それならばもう一度!」

以上、Working Mathematician ヅラをしてはいるものの、所詮実体は不良の哲学青年のナレノ

ハテが、Cancer になって多少はマジメに考えたことである。細部は詰める必要があるとは思いますが、大まかなところはそうは間違っていないのではないかと自負している。

そう、確かに間違いはない。しかし、決定的かつ絶望的な欠陥がある。Nietzsche の超人にも、Heidegger の Dasein にも、似ることさえ不可能な、ressentiment だらけの人間が考えたことではない、という点である。

3.3 Elite Consciousness

多少は、筆者の考える Dandyism, Heroism, Elite Consciousness について、その中身を補充して置きたいと思う。私筆者は、次の意味で Elite である。

もちろん、自分が Hero であったり Dandy であったり Elite であるとは (official には人には) 言わない。何故か? 世間で言われるコツブ Elite と比べられても困るのである。

ここから、語り口を多少変えさせて下さい。さすがにテレクサイのです.....

17 歳でモロトフカクテル (火炎瓶) を投げて、鑑別所に入って、成人扱いで起訴され、何時の間にか高校 (東京都立九段高校) は退学処分になっていて、トロツキストとして職業革命家への道をひた走る、というのを Elite って言うわけ。たとえば、全国高校生全共闘議長とか、ネ。

所属していた新左翼の過激派組織でも、大学生を押し退けて、年齢的には高校生で大幹部になったけど、組織の方針を巡る内部論争で敗北して挫折し、検定で大学入学資格を取って、48 流の私大の文学部哲学科 (これが日大文理のこと) に 2 次補欠とかでスベリコンで、ところが 1 年生の後期には特待生になって、それ以降卒業まで学費は払ったことがない、とかになると、これはもう超 Elite なの。

だって、大学の教員の語学力、古典ギリシア専門 (これは私の専門でもあったわけだけど) の教授よりも、私が 2 年生になったときには明らかに私の方がギリシア語もラテン語もできたし、英米哲学専門の教授の英語って、「よくこれで洋書読めるな?」っていう Level で、案の定、本読んでなかったし。どっちの大先生も、蔵書量、当時の私より少なかったな (マジメな話、三流大学にはこういう大先生がいるから、なるべく、というか絶対、チャンとした大学行かないとイケマセン。私のような Elite だからできるお説教)。

だから、修士課程で日大の外に出ることが決ったとき (東京都立大学人文科学研究科修士課程というところに入学した。50 人くらい受験者がいたけど、合格者は 4 人だった。他に京都大学の院にも受かったけど、好きな女性が東京にいたから、って言うか、世界を焼き尽くす程の大恋愛の真っ只中。もちろん止めた)、こういう大先生や、そういう先生についている上級の院生からは、心からの祝福を受けた。毎日毎日が、私にオビヤカサレル日常であつたらしい。確かに、演習でイジメまくったし、ボロクソに批判したし、先輩の奨学金も私がトツチャタこともあるし。大先生が seminar の直前に私のところにコソソリやってきて、「ここは文法的にはどう読むのか、教えてくれ。」とか言って、「先生、カンニングはいけませんよ」って追い返したりした。こういうのが、ホントの super-hyper-meta Elite なわけ。

この後、数学でも Elite 生活を送ることになるけど、今日はもう疲れたから、この辺で。

To Be Continued.